

## 展示室1a,b,c 寄贈記念 守 洞春展

2021年7月27日(火)~11月21日(日)

○印は9月26日(日)まで、●印は9月28日(火)から展示

守 洞春は1909年に高山市馬場町に生まれ、1985年に同地で没した飛驒を代表する版画家です。大胆な構図が引き立てる色摺りの美しさ、また郷里・飛驒に根ざし、いにしへの文化に思いを馳せた深みのある表現からは、時代を超えて培われてきた飛驒人(ひだびと)の美意識を感じることができます。本展示では、ご遺族からの寄贈を記念して、日本の創作版画の流れを汲む守 洞春の版画表現を紹介します。

作家名	生年-没年	作品名	制作年	技法、素材
もり 守 洞春	1909-1985	もうこしゅうらいず 蒙古襲来図	1943	多色木版、紙
		○ せいし 静思	1945	多色木版、紙
		○ まど こうず 窓の構図	1948	多色木版、紙
		● 窓の構図	1948	多色木版、紙
		うしいち 牛市	1949	多色木版、紙
		牛市	1949	多色木版、紙
		● ぎょうし 凝視	1950	多色木版、紙
		● しんべんいつせん 神変一閃	1951	多色木版、紙
		○ のりくらだけ 乗鞍岳	1952	多色木版、紙
		○ ねこ 猫	1953	多色木版、紙
		● 猫	1953	多色木版、紙
		こけでら 苔寺	1956	多色木版、紙
		○ からたち	1958	多色木版、紙
		● からたち	1958	多色木版、紙
		○ み仏の思惟の姿 ほとけ し い すがた	1958	多色木版、紙
		● み仏の思惟の姿	1958	多色木版、紙
		ひだ みんか 飛驒の民家	1960	木版、紙
		かつらきゆう 桂離宮	1960	多色木版、紙
		むろうじ ごじゅうのとう 室生寺(五重塔)	1961	多色木版、紙
		室生寺(五重塔)	1961	多色木版、紙
		安房山	1961	多色木版、紙
		えんくう りょうめんすくな 円空の両面宿儺	1962	木版、紙
		○ じしやう 慈照	1962	多色木版、紙
		● 慈照	1962	多色木版、紙
		れきし いのち 歴史の命	1962	多色木版、紙
		さきゆう 砂丘	1963	多色木版、紙
		○ せかい しゅうまつ 世界の終末	1964	多色木版、紙
		● 世界の終末	1964	多色木版、紙
		たなばた 七夕まつり	1964	多色木版、紙
		かっぱじやうしゆ 河童情趣	1965	木版、銀箔、紙
		げどうひっさつ べつだい いだてん 外道必殺 別題 韋駄天	1965	木版、紙
		○ したん 悲歎	1965	木版、紙
		● 悲歎	1965	木版、紙
あすか いしぶたい 飛鳥の石舞台	1966	多色木版、紙		
○ さほひめ 佐保姫ゆらぐ	1967	多色木版、銀箔、紙		
● 佐保姫ゆらぐ	1967	多色木版、銀箔、紙		
○ あいしも 愛子母	1966	多色木版、紙		
● 愛子母	1966	多色木版、紙		
しんに ゆめ べつだい らふぼとけ 瞋恚の夢 別題 裸婦仏	1967	多色木版、紙		
こうやさんたぼうとう 高野山多宝塔	1967	多色木版、紙		

	ずいがんじがんくつ 瑞巖寺岩窟	1969	木版、紙
	やまうみのさちくようず 山海之幸供養図	1970	紙本墨画淡彩
	みろくしゆつげん 弥勒出現の日	1972	多色木版、紙
	れいこんふめつ 靈魂不滅	1972	多色木版、紙
	あすか なぞ 飛鳥の謎	1972	多色木版、紙
	ひえい みやま 比叡の御山	1973	多色木版、紙
	りょうあんじせきてい 龍安寺石庭	1974	木版、紙
	ろうじゆきようぞく 老樹梟族	1977	多色木版、紙
	むたぼら せきてい べつだい とよぞう にわ 牟田洞の石庭 別題 豊藏の庭	不詳	多色木版、銀箔、紙
	あいぜんみょうおう 愛染明王	不詳	多色木版、紙
○	だん 断	1964	多色木版、紙
○	たかまどの 高円野	1970	木版、紙
○	ながらがわ うかい 長良川の鵜飼	不詳	多色木版、紙
○	作品名不詳	不詳	多色木版、紙
○	作品名不詳	不詳	多色木版、紙
●	作品名不詳	不詳	紙本墨画淡彩
●	国分寺	不詳	紙本墨画淡彩
●	しもたきわかやまけ うまや 下滝若山家の馬廐	不詳	紙本墨画淡彩
○	もりが 守画	不詳	墨、紙
●	ゆうげさんまい 遊戯三昧	不詳	墨、紙
	資料		